

第6学年 特別活動（学級活動）学習指導案

指導者 神尾大介

I 題材名 『5年生と絆を深めよう』

II 題材の指導構想

1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

| |
|--|
| <p>〔学級活動の目標〕 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。</p> <p>〔第5学年及び第6学年の学級活動の内容〕 学級を単位として、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるとともに、日常の生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行うこと。</p> <p>(1) 学級や学校の生活づくり ウ学校における多様な集団の生活の向上</p> |
|--|

2 題材について

6年生は、5年生と4月に「高学年対抗ドッジボール大会」、5月に「体力テスト」、そして今「市内陸上記録会」に向けて一緒に活動をしている。今後も、「市内水泳記録会」や「市内球技大会」そして「大運動会」など多くの活動を、5年生と一緒にやっていく。

本題材の内容は、高学年として児童会活動やクラブ活動、学校行事や対外行事など様々な活動を一緒に取り組んでいく5年生と、さらに団結していくにはどうすべきかを考え実践することである。5年生との交流活動によって、最高学年としてリーダーシップをとる6年生が、フォローシップをとる5年生に対して、どのように接することが大切なのかを考えたり、5年生とのよりよいかかわり方を経験したりすることができる。また、企画する際、5年生とさらに仲良くなるためにはどんなことを大切にすればよいかといった相手意識や目的意識を培うこともできる。さらに、一人一人が役割を自覚し、責任をもって協力しながら5年生との集会活動を企画し、実践することから、学級集団のかかわりをさらに深め、相手意識を醸成し、より望ましい集団に発展させていくことも期待できる。

3 子どもについて

本学級の子どもは、明るく活発で、男女分け隔てなく元気に活動する姿が多く見られる。その反面、学年が上がり、互いが馴れ合いになっていることから、友達のちょっとした言動を強く非難したり、些細なことでも譲り合えずに仲違いになったりすることもある。

学級活動については、年度当初に学級活動の内容(2)「6年生になって」でオリエンテーションを行い、扱う議題の条件や進め方について共通理解を図ってきた。話し合いの進め方については、ほとんどの子どもが理解している。また、司会・記録を輪番制で行ってきており、どの子どもも経験してきている。学級活動の内容(1)では、代表委員会に向けての話し合いや「学級目標を決めよう(神尾学級をどんな学級にしたいか)」や「誕生会をしよう」を議題とした話し合い活動を経験してきており、「学級活動が楽しい」と感じている子どもが多い。全国学調における児童質問紙でも「学級のみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」とほぼ全員が答えている。しかし、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」と回答している子どもが多く見られていないのも事実である。

4 復興教育(3つの教育的価値)との関連

(1) 生命や心について【いきる】「③【価値ある自分】」とのかかわり

話し合い活動の中で、自分の考えが友達に共感的に認められたり、板書に位置付けられたりするなど、みんなに価値付けられたときに自己有用感を感じる。

(2) 人や地域について【かかわる】「⑨【仲間や地域の人々とのつながり】」とのかかわり

学級集団の中で、活動目標や友達とのかかわりを通して、「5年生ともっと絆を深めたい」という提案理由をもとに、その問題の解決にあたって、自分と友達の考えを認め合いながら比較検討し、よりよい集団決定ができたとき、集団の所属感や仲間の大切さを感じる。

III 題材の指導計画

1 目標

- 5年生との絆が深まる集会活動を考え、実践することを通して、よりよい人間関係を築こうとする実践的な態度を養い、最高学年としての自覚を高め、学校全体のことを考えて行動できるようにする。
 - ・ 学級全体のことを考えて学級会カードに提案理由を踏まえた自分の考えを記入したり、発表したりして話し合いに積極的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
 - ・ 多様な意見のよさを生かしたり、自分の言葉で建設的な意見を述べたりしながら、みんなのことを信頼し支え合って話し合いができる。(思考・判断・実践)
 - ・ 決定したことについて、創意工夫しながら準備をしたり、計画を立てたりして、自主的にみんなのことを信頼し合って実践することができる。(思考・判断・実践)
 - ・ 計画委員会の活動、話し合い活動の準備の仕方や効率的な進め方を理解することができる。(知識・理解)

2 評価規準

| 指導項目 | 集団活動や生活への関心・意欲・態度 | 集団の一員としての思考・判断・実践 | 集団活動や生活についての知識・理解 |
|--------|--|---|--|
| 話し合い活動 | ① みんなで話し合う問題に関心をもち、計画委員会の活動や話し合いの準備などに、自主的に取り組もうとしている。 | ④ 議題について自分の考えをもち、効率的な計画委員会の運営や話し合いの活動計画について考え、準備している。 | ⑦ 計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など、効率的な進め方を理解している。 |
| | ② 5年生との集会活動の取り組みについて、自分の考えをもって話し合いに積極的に参加しようとしている。 | ⑤ 5年生との集会活動の取り組みは何かを考え、よりよい学級や学校の生活づくりに向けて考え、判断し、建設的に話し合っている。 | ⑧ 計画委員会の仕事の内容や効果的な話し合いの進め方を理解している。 |
| 集会活動 | ③ 5年生との集会活動で決定したことについて、自主的に準備や計画に取り組もうとしている。 | ⑥ 5年生との集会活動で自他の役割、創意工夫などについて考え、信頼し支え合って実践している。 | ⑨ 5年生との集会活動で決定したことについて、みんなで効率的に実践することの意義や方法について理解している。 |

3 指導計画 (全3時間)

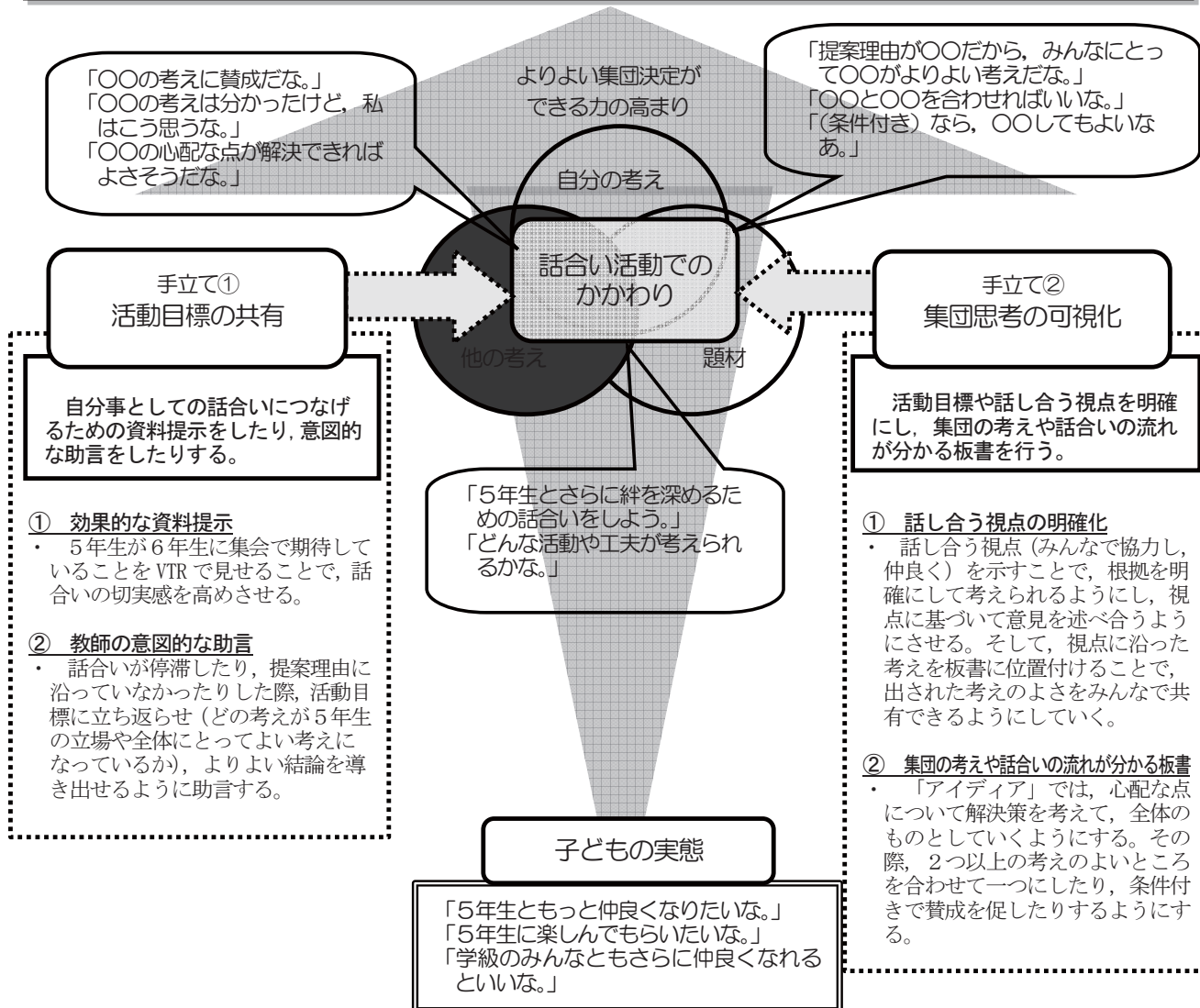
| 月日 | 時間 | 参加児童 | 主な活動内容 | 活動目標の共有(手立て①)と 集団思考の可視化(手立て②) のポイントとその内容 | 指導上の留意点と評価 |
|----------------|-------|-------------|--|--|--|
| 6/1 (月) | 放課後 | 計画委員・ 班長 | ○ 6月の学級活動の計画を立てる。 ・ 議題ポストを開け、議題を整理し、選ぶ。 | | ・ 学級のみんが楽しく豊かになることか、学級の生活が向上することかという観点で議題を選定させる。 |
| 6/3 (水) | 帰りの会 | 全員 | ○ 議題を決定する。 『5年生との絆集会(仮)』をしよう。 ○ 実行委員を決める。 | 手立て① 活動目標の共有 ・ 5年生とのこれまでの活動を振り返らせる。 | ・ これまでの5年生とのかかわりから、さらに絆を深めるために5年生と集会活動を行いたいという理由を補足させる。 【評価①】 |
| 6/4 (木) | 放課後 | 実行委員 | ○ 集会の目標と内容を検討する。 ○ プログラムの原案を検討する。 ○ 話合いの柱の原案を検討する。 5年生とさらに絆を深めるためには、どんな活動をどう工夫すればよいか。 | | ・ 実行委員が中心となって行うことと、みんなで決めることを分けながら準備を行うようにする。 【評価⑦】 |
| 6/9 (火) | 帰りの会 | 全員 | ○ プログラムを決定する。 ○ 話合いの柱を決定する。 | 手立て① 活動目標の共有 ・ 活動目標や提案理由に立ち返りながら、話し合えるような助言をする。 | ・ 実行委員会が原案を提示し、それに対して話合いを行わせるようにする。 【評価⑤】 |
| 6/12 (金) | 朝学習 | 実行委員 | ○ 5年生に集会をしたい旨を伝えに行く。 ○ 5年生が6年生としたい活動のアンケートを依頼する。 | | ・ 「もっと5年生と交流したい」という学級の思いを、実行委員が代表で伝えられるようにする。 ・ 5年生が6年生とどんな集会をしたいのかを実行委員が事前に把握することで、5年生の実態をみんなで確認させる。 |
| | 放課後 | 実行委員 | ○ アンケートの集計をする。 | | ・ アンケート結果をまとめ、みんなに報告できるようにする。 |
| 6/16 (火) | 学級活動① | 全員 | ○ アンケートの結果を発表する。 ○ 話し合う内容について確認する。 | | ・ アンケート結果から、5年生が6年生としたい活動内容を実行委員がいくつかに絞り、そこから子どもたちに選択させるようにする。 ・ 学級会カードに自分の考えを記入させる。 【評価②】 |
| 6/18 (木) | 帰りの会 | 全員 | ○ 本時の学級会において、みんなで解決していく問題であること確認する。 | | ・ 実行委員が事前に学級会の話合いの柱・提案理由・話合いのゴールを全員に共通理解させるようにする。 【評価④】 |
| | 放課後 | 進行係 | ○ 係の打ち合わせをする。 | | ・ 実際の話合いの場面を想定しながら具体的に指導する。(進行・板書の確認) |
| 6/19 (金) 本時 | 学級活動② | 全員 | ○ 『5年生との絆集会』を行うためには、どんな活動をすればよいか話し合う。 | 手立て① 活動目標の共有 ・ 話合いの切実感を高めるための資料を提示する。 ・ 活動目標や提案理由に立ち返りながら、話し合えるような助言をする。 手立て② 集団思考の可視化 ・ 活動目標や話し合う視点を明示する。 ・ 「心配な点」を解決するための「アイデア」を考えさせ、妥協点を見出す。 | ・ 教師の助言を受けながら、自分たちで決定できるようにする。 【評価⑤・⑧】 |
| 6/22 (月) | 放課後 | 各係 | ○ 集会の準備を行う。 | | ・ 5年生の立場を意識して、進めさせるようにする。 【評価③・⑨】 |
| 6/23 (火) | 学級活動③ | 全員 | ○ 『5年生との絆集会』を行う。 ○ 『5年生との絆集会』の振り返りを書く。 | | ・ 決まったことや準備してきたことを自分たちの力でできるように支援する。 【評価⑥】 ・ 取り組みを通して、自他の頑張りについて記述させる。 【評価⑥】 |

IV 本時の指導構想

自他の考えを生かし、よりよい集団決定ができる子どもが育つ授業

目指す子ども像
活動目標を自分事としてとらえ、自分や友達の思いや考えを理解し認め合うとともに、よりよい生活を目指して合意形成を図ることができる子ども

目指す授業像
活動目標を自分事として確かめ合ったり、板書によって分類・整理された多様な考えを拠り所としたりすることで、よりよい集団決定を行うことができる授業



V 本時の指導計画(2/3時間)

1 目標

- 5年生と絆を深められるような集会の内容と工夫を考えることができる。

2 評価規準

【思考・判断・実践】

- 5年生との集会活動の内容とその工夫を5年生の視点で考え、判断し、建設的に話し合っている。
- ・ 十分満足できると判断される状況
- 友達の考えを生かしながら、新たな意見や折衷案を進んで発表し、よりよい集団決定を促している。
- ・ 努力を要する状況の児童への手立て
- 友達の考えを聞いたり、板書に位置付けられた考えを見せたりして、自分の考えを発表できるようにする。

3 展 開

| 活動の流れ | 子どもの活動 | 時間 | 研究にかかると手立て | 留意点と評価 |
|--|--|----|--|---|
| 1 始めの言葉 | ○ 司会の合図で話し合いを始める。 | 1 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 座席表を用いて事前に一人一人の考えを把握し、話し合いの活性化を図る。 ・ 提案理由の説明の中で、話し合いが行われる経緯について説明させる。 ・ 一人一人の考えを短冊カードに記し、黒板に提示する。 ・ 考えが変わった子どもには、その理由を話すように促し、考えの深まりを認める。 ・ 発言意欲が低い子どもにも指名しながら発言を促し、その努力を称揚する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生との集会活動の内容とその工夫を5年生の視点で考え、判断し、建設的に話し合っている。 <十分満足できると判断される状況(A)> ・ 友達の考えを生かしながら、新たな意見や折衷案を進んで発表し、よりよい集団決定を促している。 <努力を要する状況の児童への手立て> ・ 友達の考えを聞いたり、板書に位置付けられた考えを見せたりして、自分の考えを発表できるようにする。 </div> |
| 2 係の紹介 | ○ 司会が係の紹介を行う。 | 1 | | |
| 3 話し合いのめあての確認 | ○ 話し合いのめあてを確認する。 | 1 | | |
| 4 議題の確認 | ○ 議題を確認する。 | 1 | | |
| 『5年生との絆集会(仮)』をしよう。 | | | | |
| 5 提案理由の説明 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 提案者が「何のために5年生と絆を深める集会を行うのか」という内容のことを話す。 ○ 決まっていること(条件)を確認する。 ○ 5年生の思いについて知る。 | 6 | <p>手立て① 活動目標の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生が6年生に集会以期待していることをVTRで見せ、話し合いに対する切実感をもたせる。 ・ 教師からの補足説明の中で、話し合う内容の焦点化を図り、話し合った後の自分たちの目指したい姿をイメージさせる。 | |
| 6 話し合い 【話し合いの柱】 | ○ 自分の考えとその理由を出し合う。 | 25 | <p>手立て② 集団思考の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合う視点(みんなで協力し、仲良く)を示すことで、根拠を明確にして考えられるようにし、視点に基づいて意見を述べ合うようにさせる。そして、視点に沿った考えを板書に位置付けることで、出された考えのよさをみんなで共有できるようにしていく。 ・ 「アイディア」では、心配な点について解決策を考えて、全体のものとしていくようにする。その際、2つ以上の考えのよいところを合わせて一つにしたり、条件付きで賛成を促したりするようにする。 | |
| ① どんな活動をするか | ○ お互いの考えの「よい点」や「心配な点」の視点から比較検討し、考えを分類・整理しながら話し合う。 | | <p>手立て① 活動目標の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いが停滞したり、提案理由に沿っていなかったりした際、活動目標に立ち返らせ(どの考えが5年生の立場や全体にとってよい考えになっているか)、よりよい結論を導き出せるように助言する。 | |
| ② どんな工夫ができるか | ○ 友達の意見から、自分の考えを修正・統合・発展させて話し合う。 | | | |
| ③ どんな係が必要か | ○ お互いの考えの相違点を理解し合い、よりよい集団決定をする。 | | | |
| <p style="text-align: center;">〈予想される子どもの反応〉</p> <p>【話し合いの柱①・②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドッジボールは、みんなで声をかけ合ってやると協力してできるな。 ・ 長縄跳びは、みんなの心を一つにして取り組むことができるな。 ・ 鬼ごっこで、鬼にタッチされたら、自己紹介するともっと5年生のことを知れるよね。 <p>【話し合いの柱③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会を進行する役割が必要だね。 ・ 5年生に分かりやすいように活動を説明する人が必要です。 | | | | |
| 7 決まったことの確認 | ○ ノート記録が発表する。 | 1 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 決まったことを短く発表させる。 ・ 話し合いや活動に対しての意識の持続化を図るために、次の3つの視点で振り返りをさせる。 ① 取り組みに向けてがんばりたいこと ② 話し合いについて思ったことや考えたこと ③ 友だちのよいところ ・ 助言の中で、考え方のよさや参加態度などを賞賛し、話し合ったことの満足感や実践への期待感を高める。 |
| 8 今日の話合いの振り返り | ○ 自分の考えが話し合いを経てどのように変わったか、深まったかを学級会カードに書き、発表する。 | 5 | | |
| 9 先生から | ○ 教師の話を聞く。 | 3 | | |
| 10 終わりの言葉 | ○ 司会が話す。 | 1 | | |